

第66回 埼玉県美術展覧会審査評

【第4部 工芸】

審査主任 はなわ 花輪 しげみ 滋實

第66回展の工芸は一般・会員の出品は297点で入選数は176点、入選率は59.3%とおおむね昨年並でした。今回、立体作品として安定感に欠けた作品が多かったように思います。特に陶芸部門の壺やオブジェの底が小さいものが目立って、不安定に感じ、美的バランスも崩れている要因になっていると思います。

また、組み物について全部門で言えることですが、組ませる意味を明確にしてもらいたいです。1点では寂しいとか弱いとかで組ませても、本意がずれてしまうと思いますので、作る段階での意志を大切にしてください。

近年、若い人が新鮮な初々しい風を吹き込んでくれています。金工では高校生が素敵な作品を出してくれています。ベテランの人達には失敗を恐れずに勇気をもって新たな作品に取り組んでもらえればと思っています。

・埼玉県知事賞

せいじゃく ひかり
「静寂の光」 はまだ とよこ
濱田 登代子

県知事賞に輝いたこの作品は主に七宝技法を用いた壁面作品です。大画面の中に夏の夜を表現し、大木の周りを飛び交う蛍の群れを描いています。夜の闇を深い青色、蛍の光をオレンジ色で表わし、画面の奥行きを感じさせる構成になっています。また、作者は七宝以外にも自ら銅板を加工し、表面処理して画面に組み込む等、工芸技法に対する積極的な姿勢が伺えます。作者の深い精神性が素材、技法によって良く具現化された秀作です。

・埼玉県議会議長賞

ねりあげまるつぼ かどう
「練上丸壺『渦動』」 ねもと ひろお
根本 博雄

この作品は練込みという技法で制作されています。練込みとは白い陶土

にパーセンテージを変えた顔料を加え、それらの色違いの陶土を重ね合わせて切断し、練合わせた色違いの陶土で作品制作していくことです。今回の丸壺はリズムカルな渦巻文様で制作されており、すがすがしい好感の持てる作品となっています。錬込みはキズが出やすい技法ですが、この作品はその難題を克服し、完成された作品です。

・埼玉県教育委員会教育長賞

「たてすじかま縦筋釜」ながの長野あらた新

作者は祖父の代から続く釜師の家柄で、しっかりした技術を身に付けています。

たっぷりとしたフォルムに、すっきりとした肩の稜線が全体の形を引き締めています。縦に細やかに走る縦文様も一様では無く、時に荒々しく、時にか細く途切れながらバランスを保っています。小ぶりの環付も形態や文様の邪魔をする事無く、良い引き立て役となっています。

・埼玉県美術家協会賞

「かんしつさめがわぬりめいめいざら乾漆鮫皮塗銘々皿」おおうえ大上ひろし博

古くからある乾漆技法に異素材を組み合わせた器物です。縁づくりのさざ波のようなイメージに対し、見込みには深海の静けさを彷彿とさせ生命感をも感じさせる作風です。

研出技法による蒔絵技術も麗しく、熟知された技術と共に洗練された秀作です。これからの制作に更なる期待を寄せるものです。

・埼玉県美術家協会賞

「ひこばえ蘂」きむら木村かな佳奈

既存の彫金鍛金作品を意識せず、自由な発想で構成された作品です。工芸素材である銅板の特質が確かなテクニックにより活かされており、若い女性である作者の感性がすべてのモチーフに表われており、とても楽しく心深く伝わってくる作品です。

若い感性で構成・制作された彫金作品の出品が増えていますが、この作品

は自由で個性的な発想を競い合う、起爆剤となる作品であると思います。

- 埼玉県美術家協会賞

「うよ きょくせつ 紆余・曲折」 むらた しほ 村田 之保

自然素材を用いた壁面の作品です。

漉きっぱなしの紙を台紙として白木の板で枠を立ちあげ、竹ひごを渡して麻糸をからめ、紙こよりで渦を作り文様として散らしたユニークな作品です。壁面ながら立体的な構成で特定の形に留まらない新鮮さを感じ、バランス良く仕上がっています。

題名から作者が作りながら心の動くままに、手を加えていったのではないのでしょうか。心落ち着く素敵な作品です。

- 東京新聞賞

「ふうすい 風水」 いのうえ みちよ 井上 美千代

全体的にやわらかなフォルムで構成され、難しい形状ながら、軽やかさ・爽やかさがうまく表現されています。

色彩的な処理にも細かな工夫がみられ、色・形のバランスが良く考えられているので、「風水」というタイトル以外にも観る人に多彩なイメージを想起させてくれる優れた作品になっています。

- 埼玉県美術家協会会長賞

「くさきぞめ・ロートンおりきもの そうしゆん かだん 草木染・道屯織着物『早春の花壇』」 たどころ ともえ 田所 智江

草木染による糸染めに質の高い堅牢度を感じました。丁寧な糸染めの結果得られる透明感が心地良さを与えています。絵羽組み（着物の縫い目）まできっちりと計算されて治まっており、模様部分のつながり、要所に横に走る紋織りの光沢の効果など緻密に組み合わせられた力作です。それでいながら早春の光と快い微風まで覚えるような、おおらかな空気感に見る者を誘う、工芸の染織ならではの秀作です。

- 高田誠記念賞

せきしゆん
「惜春」

さかた ゆき
坂田 裕紀

人形の制作は身近なモチーフのため、造形に於いてのデッサンがしっかりする事と、頭部から肩の線及び腰・足先までの型体が大切です。

この作品は人形制作における基本的な技法・技術の数々を用いており、色彩は極力抑えて清楚で美しく、しっかりとしたフォルムと緻密な構成になっています。独創的で表現力豊かな美を有する魅力あふれる秀作です。